



SCI Agritech @JICA筑波 NEWS LETTER

Vol.01
2020年03月号



SCI、「スマート農業」の波に乗る!?

世界的な農業イノベーション展開、スマート農業推進、TICAD7農業投資などの流れを受けて、JICAでは「デジタルトランスフォーメーション推進タスクフォース (DXTF)」という組織が設立されました。

JICA筑波センターでは、こうした流れに対応するためにセンターの役割として①ビジネスマッチング（対民間企業）、②途上国のスマート農業に関する人材育成、そして③スマート農業に関する日本人専門家の育成、という3本柱を提案し、スマート農業への取組みへの積極性を見せています。三祐コンサルタンツ（以下SCI）では、こうした流れに乗り、昨年12月から同センター実習棟（温室）の一角を借りて、Farmoというクラウド型の農場モニタリングシステムを試行的に設置し、環境情報（右下コラムに詳細記載）の記録を実施してきました。

今後、こうしたスマート農業に関して海外の需要と日本の技術を繋げていく役割としてSCIが先陣を切れるよう、情報共有や勉強会を行っていきたいと考えています。

「デジタルトランスフォーメーション推進タスクフォース (DXTF)」とは？

世界的なデジタル経済化の流れを踏まえ、JICA内外でDX（デジタル技術による事業構造等の変革）を推進することを目的として、2019年12月1日付けで理事長直轄で設置された（期間：6ヶ月）。JICAとしては、今後円借款事業等でのDX推進を図る意向。メーカーからのデジタル技術提案に対して、コンサルタントが商品価値を付けてプロジェクトとして提案して頂くような役割が期待されている。

JICA筑波センターにて第1回勉強会を開催しました

2020年3月21日にJICA筑波にて、技術第1部を中心とした計5名により、Farmoの運転状況の報告会、兼スマート農業をテーマとした勉強会を開催しました。

Farmo設置のハウスを含む施設見学の後、荒川部長からの活動報告、及び今後の活動計画についての発表、続いて江口（岳）氏によるスマート農業技術の紹介に関する発表が行われました。最後に、海外での活用方法や、次期活動について、活発な意見交換が行われました。例えば、「こうしたモニタリング機器によって得られる情報は、国や地域の農業条件によって必要なものが異なる。そこを見極め判断し、提案していくことがコンサルタントの役割」という意見が挙げられました。今後、我々コンサルタントが海外の現場にて使えるものを判断していく実践の場としてJICA筑波センターを有効に利用しながら、スマート農業に関連した活動を進めていく方向です。

Farmoってなに？

Farmoとは、株式会社ぶらんこの提供する「クラウド型の農場モニタリングシステム」

特別な配線工事は不要。スマートフォンやタブレットから、簡単に農場の環境を正確に把握することのできる次世代型の農業支援ツールです。



↑実際に温室に設置していたFarmo。プランターではルッコラを栽培。

気温	生長点	地中温度	炭酸ガス濃度
湿度	日射量	飽差	土壌水分

↑ Farmoで測定可能な環境情報。計測データはスマホのアプリから24時間いつでも閲覧可能。



写真：Farmoの見学の様子（左）、荒川部長による発表（中央）、江口（岳）氏による発表（右）